

セイフティーネットプロジェクト横浜主催

自閉症や知的障害のある方のコミュニケーション支援に関する研修会

令和6年8月6日（火）、横浜市健康福祉総合センター4階ホールにて、研修会を開催しました。当日は、WEB参加も含めて、学校や障害福祉関係の職員など、79名に参加いただきました。

『コミュニケーションボード』とは…

自閉症や知的障害のある人の中には、言葉だけでなく、わかりやすい絵記号や写真などで使うことでコミュニケーションがスムーズになる人もいます。『セイフティーネットプロジェクト横浜（以下『Sネット』）』では、平成17年からコミュニケーションのバリアフリーを広げるため、『コミュニケーションボード・カード』の作成と普及活動を行ってきました。

今回の研修では、『Sネット』事務局からこれまでの取り組みを報告し、参加者へ『コミュニケーションボード・カード』の活用を呼びかけました。



災害用コミュニケーションボード

支援の現場から～コミュニケーションカード等の実践報告～

『コミュニケーションカード』等を取り入れ、支援をしている鷹羽誠一氏（芹が谷やまゆり園）から、試行錯誤しながら取り組んだこれまでの実践をお話していただきました。

鷹羽氏は「イメージは人それぞれ。カードは障害のある本人のイメージしやすい図柄を選び、現物とカードが結びつくまで説明は丁寧に行うことが必要である」と、カードを取り入れる時のポイントを説明されました。そ

して、これまでの経験を振り返り、「支援者が何かを伝えるためではなく、障害のある本人が自分の気持ちを伝えるためにカードを使用することが大切である」と話されました。



支援現場で活用しているカードの一例

障害理解を広げていくために



ふれあいの家・ふれあいクローバーのみなさん

『S ネット』では、地域の人たちと顔見知りになるために、障害のある人や家族等が「出前講座」に取り組んでいます。今回は、『障害者地域活動ホームふれあいの家』・『ふれあいクローバー』のみなさんに実演していただきました。

講座では、黄色と緑のバンダナの取り組み（※）の紹介のほか、「避難場所で車いす対応のトイレがどこにあるかを教えてほしい」、「どんな支援が必要かを紙に書いて持っていることは自分たち

が事前にできることだと思う」など、利用者たちの思いを届けました。また、9月の『ふれあいまつり』のPRを行い、「普段の活動場所にもぜひ来てほしい」と参加者に呼びかけました。

ふれあいの家の野尻所長は、「事業所全体で改めて災害のことについて話し合うよい機会となった。発表した利用者は、事業所代表として多くの方に話を聞いてもらい、それぞれの自信に繋がったと思う」と、感想を話されていました。

※ 黄色と緑のバンダナの取り組み



『S ネット』では、災害時、障害等があり配慮が必要な人が支援を受けられるよう、決まった色のバンダナ等を身につけようと、この取り組みを進めています。

黄色＝配慮が必要な人 緑＝支援ができる人

参加者の声

「イラストを使ったコミュニケーションを学ぶことができた」「出前講座で災害時の対応等が聞くことができよかった」「その方に合わせたコミュニケーションが求められることを改めて認識できた」などの感想が寄せられました。

これからも、『S ネット』では『コミュニケーションボード・カード』の普及活動を進めていきます。ご興味のある方は、インターネットで『セイフティーネットプロジェクト横浜』を検索し、ホームページをご覧ください。

<問い合わせ先>

セイフティーネットプロジェクト横浜事務局：横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター

TEL：045-681-1211 Fax：045-680-1550